

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>家族には運営方針・理念を入居手続き時に説明する。また、事業所内にも掲示を行っている</p>	<p>法人としての理念・方針にとどまらず恵泉グループホームとして独自の理念で作り上げたいと考えている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を事業所内に掲示すると共に定期的に説明し、周知している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターなどにパンフレットをおいている</p>	<p>恵泉グループホームとしての独自の理念を作り上げ、家族や地域に発信していきたい</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>住宅街から少し離れており、立地上難しい所があるが、ケアハウスや特養の利用者の方との交流を行う機会を設けている。地域の学校行事やふれあいコンサート等に参加している。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>法人内で開催する盆踊り大会や文化祭など地域の方の参加を呼びかけている。また、恵泉保育園の園児との交流の機会を設けている。</p>	<p>運営推進会議員の中に、地域の高齢者部長の方がおられるため、今後地元の方々との交流をすすめていきたいと考えている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>昨年度の自己評価および第3者評価の結果は全職 員に報告し、いつでも閲覧できるようにしてい る。 「要改善」のチェック項目には改善のための取り 組みをすすめている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食事づくり(炊飯・おやつづくり) ・運営推進会議の開催 ・グループホームの案内板
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、活発な意見のやりとりや質問 を頂いている。その会議の内容等は報告書を作成 し、全職員への周知、サービス向上へつなげてい る。</p>	
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>明石市へ運営推進会議への参加をお願いしてい るが、参加していただけない。そのため、市との交 流も行えていない。</p>	<p>運営推進会議に明石市職員の方にも参加してい ただき、サービス向上について、一緒に取り組みた い。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る</p>	<p>現状として、地域福祉権利擁護事業や成年後見人 制度について学ぶ機会を職員は持っていない</p>	<p>内部研修のテーマにあげて取り組んで行きたい。 また、外部で開催される関連する研修にも参加で きるようにしたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日々の申し送り等を綿密に行い、職員間でケアの 統一を図り、虐待のないケアにずれの無いことを 確認している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約説明時には、十分に時間を取り、ご家族の不安や疑問を解消できるようにし、ご理解頂けるよう説明している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常いつでも苦情・不満には耳を傾けている。「何かお困りのことはありませんか」などの声かけを行うようにしている・運営推進会議内でも自由に発言していただけるよう取り組んでいる。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ご家族様の面会時には必ず現在の暮らしぶり、健康状態など、個人に合わせた報告を行っている。又、その機会にご家族の意見や不満、疑問に関してもお聞きしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議の参加委員の中にご家族の方も入っており、意見が反映される場となっている。</p>	<p>運営推進会議を委員以外のご家族の方にも年1回参加していただき、率直な意見を聞くことのできる場にしたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回詰所会を開催している。また、人事考課時に管理者と個人面談を行っており、意見を聞く場としている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の体調不良や受診・外出など職員数が必要なときは、積極的に勤務調整を行い、利用者の方の状態に合わせた体制を取れるようにしている。また、話し合いを行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在は職員の異動による環境の変化の大きさの重要性を重んじ、極力異動がないような体制をとっている。 また、離職者が出ないようにし、できるだけ利用者の方への影響がでないように配慮している。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修、外部研修へ参加している。 参加した職員は施設内で伝達講習を行うなどして、研修内容を共有できるようにしている。		できるだけ多くの職員が認知症や地域密着サービスの理解を深められるよう、外部研修が受けられるように努める。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、他のグループホームとのネットワークがなく、交流する機会がない		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室の確保、休憩時間の確保に努め、できるだけ希望日に休暇を取れるように配慮している。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の職員の質も高く、向上心を持って勤務している。今後も、各職員の実績、勤務状況を把握し、評価できるようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>「何か困ったことはありませんか」と常に声をかけるようにしている。又、各職員が利用者のちょっとした変化に気づけるように努めている。</p>	<p>「お困りごと相談日」など、曜日を設定し、開催できるように検討している。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>グループホームを訪ねて頂いた時に「何かお気づきになられたこと、気になることはありませんか」と職員から尋ねるようにしている。また、来られた方がいつでも相談できるようにしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けたときに本人と家族の「困っていること」「何が必要か」を見極め、他のサービスを含めた情報を提供し、どのサービスが適しているかを検討し家族へのニーズに素早く対応している。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に見学に来ていただき、グループホームの雰囲気に馴染んでいただく。そして、その時の状況を踏まえ、家族の方との相談を行い、利用をしていただいている。</p>	<p>他施設からの入居の場合は、2～3時間程滞在していただき、環境に慣れていただく。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の方と共に掃除などの家事を一緒に行い、利用者主導での生活環境づくりを行っている。</p>	<p>利用者の方に職員が教えていただくような活動も行っていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	ご家族の方から利用者の今までの生活の情報を頂いたり、何かあれば相談させていただき、助言を得ている。面会になかなか来れない家族の方には、電話などで本人の状況を伝え、現状を理解していただいている。		
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族に認知症について分かりやすく説明を行い、利用者の現状、協力していただきたいことを伝えている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の以前に生活していた場所が近隣の場合は利用者と共に訪問を行っている方もいる。		ご家族等にも協力していただき、故郷への訪問などができないか相談を行う。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	何らかの活動を行うときには、全ての方に参加を促し、全員で行える場面を作っている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	何かあれば連絡をいただくようにしており、こちらからも常に相談等行っている。入院中であればお見舞いに行くなどしている。又、他施設に入所された場合は、面会に行くなど行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者と一対一で話をする時間を作り、一人ひとりのニーズを聞き出し、意向を把握する。</p>	<p>介護計画に本人の希望や意向を取り入れ、職員に認識してもらっている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者本人と家族、以前利用していたサービス事業者等から情報を収集し、把握している。</p>	<p>利用者本人から家族も知らない生活歴の情報があれば、本人の承諾を得て、家族に伝えている。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの生活を「相談員日誌」「夜勤日誌」「症状記事」に記録し、申し送り等を通して、総合的に把握する努力を行っている。</p>	<p>記録内容の充実を図る。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者本人、家族、主治医、介護職員から情報を取得し、必要であれば、話し合いを行い、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者本人、家族からのニーズを聞き出しやすい状況、環境づくりを心掛ける。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間でなくても、心身の変化等により、利用者本人、家族、主治医、介護職員から情報を取得し、必要であれば、話し合いを行い、意見やアイデアを反映した現状での介護計画を作成している。</p>	<p>症状記事の記録等を見てチェックを行い、本人に確認のうえで家族、必要な関係者と話し合い変更をしている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ内の「症状記事」に個別記録を記入し、介護計画の実践と見直しに生かしている。また、月1回介護計画の経過を記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要時に応じて利用者とのなじみ等を考えた支援を行っている。		利用者の方に職員が教えていただくような活動も行っていきたい。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を定期的に行い、民生委員、家族、利用者に出席していただき、いろいろなアイデアを頂いている。誕生日会等の行事にもボランティアの方に参加していただいている。		ボランティアの参加を増やすための取り組みを行う。
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅のケアマネジャーから情報提供は受けているが、現実のサービス利用はまだない。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの直接的な協働は行なわれていないが、権利擁護についての説明は入所時にご本人、家族様に説明している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人のかかりつけ医を受診して頂いている。主治医に毎週火曜日に往診していただき、利用者に異変があれば、すぐに連絡を取り、適切な医療を受けられるように支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて主治医、家族等と相談し、受診できるように支援している。法人内のクリニックへすぐに相談できる体制を取っている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎週火・金曜日に看護師が訪問しており、気軽に相談しながら体調管理への助言を頂き、主治医の指示のもと実行している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院されたときは、病院側へ必要な情報を提供し、入院中はお見舞いに行くと共に、病院側から情報提供を受け、退院後の対応ができるようにしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については利用者、家族等、ならびに主治医等と話し合いを行い、方向性を共有できるようにしている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期の利用者への支援に対しては、家族等や主治医ならびに職員で話し合い、必要なもの、必要なこと、できること、できないことを明確にしてチームとしての支援に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替え時は移り住む先の関係者に利用者の情報を詳しく伝え、環境を整えると共に本人と家族に見学して頂くなど、情報を提供するようにしている。</p>		<p>住み替え後も職員が訪問できる体制を取り、住み替え先との連携を取るようにしている。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>法人で個人情報保護規定を定めている。そのマニュアルに基づいた対応を行っている。又、一人ひとりの尊厳を大切にされた対応を行っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者の考えなどをゆっくりと伺いながらできること、できないことを見極め、支援している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事・レクリエーションなど一定の生活の流れは作っているが、入居者一人ひとりのペースでゆっくりしていただけるよう配慮している。</p>		<p>食事以外の時間には居室や食堂で自由に過ごしていただいている。 どの様に過ごせばよいか迷っている方に対しては、会話をするなどしている。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>筆筒が居室内にあるので、自由に服を選び、着替えていただいている。化粧品も利用できるように各自で持っている。 美容に関しては、出張サービスを利用し、カット、顔そり、毛染めを行っている。</p>		<p>その日の天候、気分にあわせて自由に服を着替えている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事一連の作業は行えていないが、準備、配膳、片付けは行っている。定期的に嗜好調査を行い、献立に生かすようにしている。		栄養士の栄養管理のもと、食事を提供しているが、ケチャップやしょうゆを置くなど、好みに合わせた味付けができるようにしている。レクリエーションの一環としておやつ作りを行っていたが、炊飯も行うようになった。
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物、おやつに関しては全員ではないが、ご家族の持って来られたものを居室で召し上がっていただいている。 お酒、たばこについては、好まれる方がおられない。		おやつ作り等に好みのものを提供できるようにしていきたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その方にあった排泄パターン、又、サインを見逃さず、随時のトイレ介助を心掛けている		夜間安眠を重視する方など、入居者の状況によってオムツの使い分けをしています。 夜間オムツを使用されている方でも覚醒されておられ、排泄の訴えがあるときはトイレへ案内している。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日、時間帯は決まってしまうが、熱めの湯がいい方は早めに、一人で静かに入る方は、その時間をつくるなど、一人ひとりが気持ちよく入浴できるよう配慮している。		日曜日を除き、入浴日でなくても、ご希望があれば毎日入浴していただいている。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	消灯は、21時ですが自室のテレビをみて過ごされている方もおられる。 昼夜逆転しないよう、個人に合わせて対応している。		夜間、覚醒の多い方に対しては、昼間の活動を多く取るよう心掛けている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、園芸、裁縫など個人の趣味をレクリエーションなどを通して生かしていただけるよう支援しています。		このたびの文化祭で1人1点以上の作品を展示することにより、新たな発見を見出すことができたので、継続していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどが、家族あるいは事務所管理であるが、本人や家族の要望にて持って頂いている方もある。 買物の際にはお金を持っていき、支払いしていただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	市街から離れているという立地上、気軽に外出することができないため、ホームの周りや法人の敷地内を散歩していただくなど行っている。また、ごみ捨てに行くなど、外に出る機会を持っていただけるようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	買物の希望がある場合には買物に行っていたいただいています。立地上、外出には車が必要であり、難しい部分もあるが、ご家族の協力を得てご家族との外出する機会を設けて頂いている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある場合は事務所の電話を利用している。手紙は、職員が投函しているが、本人が希望された場合は、近くのポストまで職員が案内し、ご自分で投函できるようにしている。		ご家族、ご友人から手紙が届いた場合は、返事を書いてみてはどうかと声を掛けていきたい
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	笑顔での挨拶や居室でゆっくり過ごしていただけるよう、お茶の用意をしています。又、食事も一緒にとっていただけるようにしている。		大勢での来所があった場合は、スペースを用意し、椅子等を用意している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の拘束に対する理解はあるが、ご家族の希望でどうしても安心ベルトの着用がはずせない方がいらっしゃる。		夜間の行動パターンを把握しご家族と話し合いのもと、徐々に拘束時間が短縮できるよう取り組んでいる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各フロアの出入り口はオートロックとなっている。 居室は、本人が鍵を自由に開閉できるようにしている。		職員配置を工夫して、ロックをなるべくしないよう配慮している。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	詰所にもらず、安全のため入居者の側で記録も書くようにしている。 夜間2時間おきに巡回をしているが、その日の状況に応じて、1時間おきなど間隔を狭くするようにしている。		休憩時間を見直し、フロアにいる人数を多く取るようにしている。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針やはさみなどは詰所で管理し、必要時のみ職員と共に取り扱っている。本人の希望がある場合は、本人の状況をもとに、ご家族との相談の上で管理をしていただいている。薬は詰所で管理している。		本人が管理している場合は、カルテの見えるところに記載し、全職員が把握できるようにしている。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	火災については、年2回消防訓練を行っている。 事故を未然に防げるよう、申し送り等で一人ひとりの状態把握を行っている		事故が起きた場合、事故報告書、事故メモ（ヒヤリハット）を記入し、カンファレンスを行い、再発防止に努めている。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行っていない		急変や事故発生時には緊急対応フローチャートにそって対応している。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練を行い、自主点検を週1回行っている。 緊急対応マニュアルに沿って対応しています。		災害時には緊急対応フローチャートにそって対応している。また、併設施設と連携を取れるようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	特に変化のあった場合、又、現在の状態などご家族が面会の際、話し合う機会を設けている。		急を要する場合は、電話連絡をしている。ご家族との話し合いを重視し、連絡を密にするようにしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	いつもと違うと気づいたときには、申し送り、記録を行い、時によっては医師へ連絡し、対応しています。又、医師と相談の上、家族へ連絡相談を行っている		ミーティングに時間を取り、しっかりと申し送りを行い全職員が熟知できる体制を取っている。
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局による薬剤管理の上、毎回の内服等については職員の方で確実にこなしています。服薬の内容はカルテにはさみ、職員全てが把握できるようにしている。		服薬が困難な方に対しては、職員同士で情報交換を行い、確実に服薬できるように取り組んでいます。
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分の摂取を促したり、レクリエーションに運動、腹部のマッサージを取り入れたりしています。		排便の有無の確認は毎日行い、便秘がひどい場合には、医師から処方していただいた下剤を服用する場合もあるが、水分摂取や運動等日常生活の中で予防することに努めている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯磨きの声かけまたは見守りを行っている。		義歯洗浄を行っている。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養管理がおこなわれており、食事量や水分量も記録している。食事量が少ない方には補助食品などで補う場合もある。		水分量が少なくならないためにも、こまめにお茶やジュースを提供するようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがいや手洗いを実施している。 インフルエンザは予防接種を行っている。 感染防止マニュアルに基づき、感染予防及び対応を行っている。		ピューラックスを使用して清掃するなどしている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日々の清掃やふきん等の消毒を行い、冷蔵庫内の点検を行っている。		調理をしないため、食材はほとんどないが、お菓子やジュース等の賞味期限、消費期限を確認や、食べかけのものが放置されないようにしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には鉢植えや、お花を生けて飾り、明るい雰囲気になるように心掛けている。		入居者の作品を玄関に展示しています。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや音楽の音量には適切な大きさになるよう気をつけています。 夏は日差しがきついため、たてすを使用して調節しています。		季節感をだすためにハナを飾ったり、ガラス面に飾り付けをしています。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とダイニングが離れているため、どちらかで過ごしていただけるようになっている。 2Fにはソファを設置している。		一人で過ごす時間が多くなるないように、レクリエーションを通して、他入居者との交流の場を持つよう心掛けています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品を持ち込んでいただいています。		ご自身で作ったカレンダーや作品を飾って頂いています。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気を行い、室内の温度が適温となるよう調節しています。		各居室については、設定温度を同一にしているが、個々に合わせて調整している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴槽・廊下・トイレ等に手すりを設置し、洗面台は少し低めにするなど、本人の能力で生活できるようにしている。		立ち上がりやすいように椅子はすべてひじ掛け付きの椅子を使用しています。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりに合わせた声のかけ方や生活援助を行い、自信をもって生活できるよう支援をしている。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭で花を育て水まきや草引きをしていただいている。 ベンチを設置しており外の景色を見ながらゆっくり過ごす場所と時間がある。また、布団や洗濯物を干すのに利用している。		外の空気を吸いに建物の周りを歩いたり、咲いているお花を摘んだりしている。

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

2005年より介護予防に取り組んでいます。

日々、ラジオ体操やタオル体操など介護予防を意識して体を動かし、健康維持をすすめています。毎月、5m歩行タイム、足上げタイム、動的バランス、長座位前屈、片足立ちタイムを測定・記録しています。

毎月の体内脂肪測定はもちろん、半年ごとに握力測定、骨密度測定を行い、健康へ関心を持って頂くようにしています。又、これらのデータを皆さんの健康管理に役立てています。

年を重ねることに喜びを。「恵泉グループホーム」が入居者の方の「我が家」であるよう努めています。